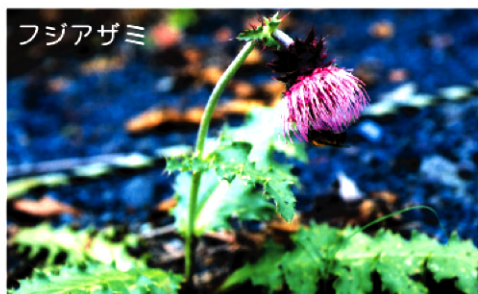


ふじあざみ



フジアザミ



コケモモ



ヤマホタルブクロ



ヤマトリカブト



ハクサンシャクナゲ



ダイモンジソウ



タカネバラ



コゼンタチバナ



タカネビランジ



クルマユリ



ヒメシヤジン

富士山の高山植物

■日本の高山植物

富士山の高山植物の種類や分布状態は、まわりの南アルプスや北アルプスのものとは、だいぶ違ってきます。

現在日本の高山で見られる高山植物は、約1万5000年前、ウルム氷期という氷河期に、平地で分布していたものです。当時の気候から、現在の南極や北極のように大地が氷河で覆われていました。やがて、地球の気候が暖かくなると、平地で繁栄していた植物は温度のより低い高地に逃れるようになったのです。

ところが、日本の代表的な高山植物のほとんどは富士山では生育していません。

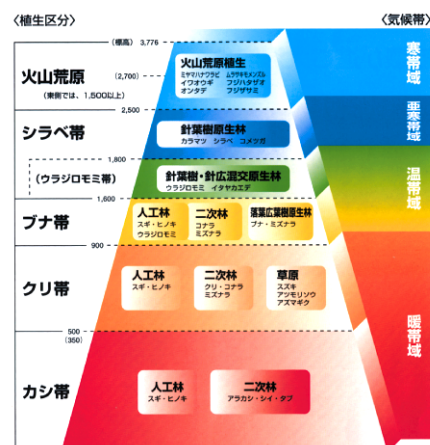
富士山が現在の姿になったのは約1万年前のこと。植物が高山に逃れた後で、富士山では独自の高山植物が生育しました。したがって、他の高山植物と富士山の高山植物は生い立ちが異なります。特に富士山に多く見られる植物には「フジアザミ」、「フジイバラ」、「フジザクラ」、「フジマツ」など名前に「フジ」がつけられています。

■御中道を彩る自然

富士山の中腹を、標高2,300m～2,900mの等高線に沿ってぐるりと一周する道を御中道といいます。(現在は崩落等のため、一周できません。)

御中道の沿道では、荒れ地からの植物の遷移、足元の可憐な花々等、様々な自然が見られます。

中でも、カラマツの林では、木漏れ日が多く、木々の間にはたくさんの下草が生えています。春から秋にかけては、その時々彩りの花に出会えます。



風穴は富士山の熱いマグマの贈り物

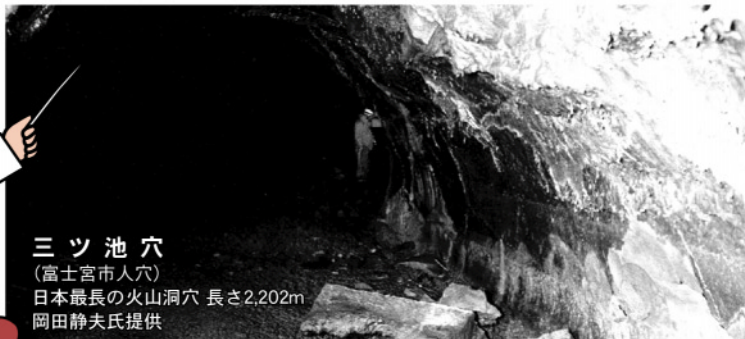
富士山の基礎知識

富士山周辺には100を超える風穴があります。暗くて、冷たくて、静かな風穴は、ここに赤々と燃える溶岩が流れていた何よりの証拠。今回はその風穴ができた理由や風穴にまつわる伝承を紹介します。

参考資料
『富士宮の火山洞窟』 富士宮市教育委員会



三ツ池穴
(富士宮市人穴)
日本最長の火山洞穴 長さ2,202m
岡田静夫氏提供



風穴(洞穴)ができた理由

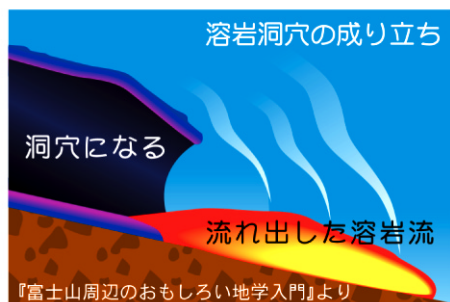
富士山は現在の形になるまで幾度となく噴火を繰り返してきました。中でも約5,000年前の噴火活動の時に流れ出した溶岩(玄武岩)によって、富士山の周辺で見られる風穴のほとんどが作られました。そして、今までに100を超える風穴が発見され、現在でもその数が増え続けています。

噴火によってできる風穴には、その成り立ちによっていろいろな種類がありますが、富士山周辺の風穴は主に次の2種類に分けられます。

■溶岩洞穴

火山によって流れ出した溶岩流の中にできる洞穴。約1,000℃という高温の溶岩は地表に出ると空気に触れている表面は急速に冷え、固まりますが、溶岩流の中身は高温でドロドロのままです。その中身が冷えた表面の殻を破り、流れ続け、空洞だけが残ってしまうことでできる洞穴です。

また、中にガスなどがたまっていた場合なども同じように空間ができます。

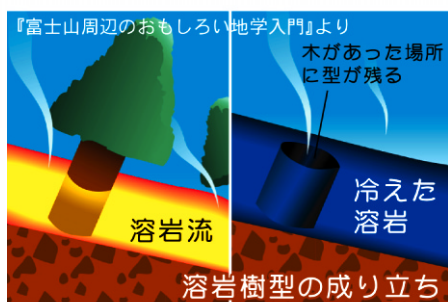


■溶岩樹型

溶岩樹型は溶岩流が樹木を包み込んでできる洞穴で、樹木のあった空間が後に洞穴として残ったものです。岩肌には木の肌がそのまま写し出されていたり、変化に富んだ洞穴です。

そして、その時に飲み込まれた樹木が数本で流され、重なり合ってできた溶岩樹型を特に複合溶岩樹型と言います。

複合溶岩樹型は大変珍しい洞穴で富士山周辺の8つの洞穴しか世界で発見されていません。

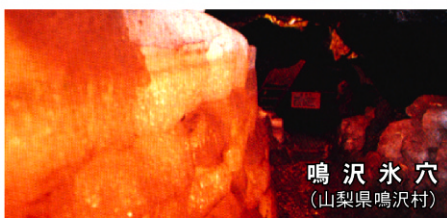
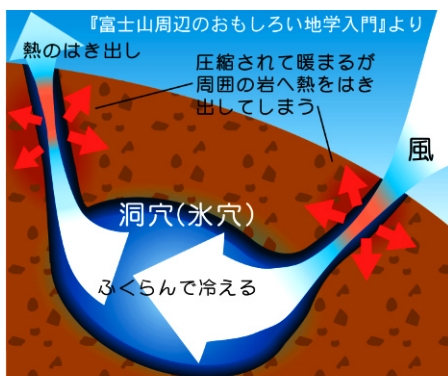


自然の冷蔵庫・氷穴

富士山には氷穴というものがあります。内部は夏でも氷が絶えないことから、冷蔵庫がなかった江戸時代の頃など、この氷が将軍に献上されました。

この氷穴は吹き抜けのつくりになっていて、空気が出入りする時に温度が調節されます。空気は圧縮されると熱せられ、膨張すると冷えるという特徴をもっていますが、熱せられた分は地下の岩に奪われてしまうため、氷穴内は、空気が膨張した分、温度が低下します。この空気が循環し、低い温度が保たれています。これは電気冷蔵庫と同じ原理です。

参考:『富士山周辺のおもしろい地学入門』 服部哲雄著



鳴沢氷穴
(山梨県鳴沢村)

風穴が生んだ伝説

■人穴伝説

「吾妻鏡」(あづまかがみ)によると建仁3年(1203年)6月、源頼朝の子、頼家により再び巻狩りが行われました。富士山のどこかに「人穴」という奇妙な洞穴があるという噂を聞いた頼家は、仁田四郎忠常という家臣に人穴探検を命じました。仁田四郎忠常は曾我兄弟の兄・曾我十郎を打ち取り、巻狩りでは、猪の背にまたがり、打ち倒したというほどの猛者でした。

主従六人で勇ましく「人穴」に向かった忠常でしたが、探しあてた「人穴」の中は人のアバラ骨のような岩壁で覆われ、足元には川のように地を這う大量の蛇。さらに奥では、千人の大軍を思わせるような関の声や囁き泣きが忠常を襲います。

やがて、真っ白な着物と真っ白な髪の鬼とも神ともつかぬ人物に出会い、すぐに立ち去るようにと命じられ、忠常は命からがら逃げのびます。

頼家のもとに帰った時には、五人いた従者は一人だけ、忠常も疲れ果てた様子でした。地元の古老は「この穴は浅間大菩薩の住み給う場所であります」と語り、二度と「人穴」には近付かないように頼家を諷めました。

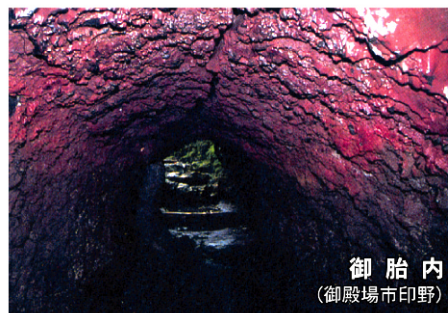
参考:『富士山 史話と伝説』 遠藤秀男著



人穴
(富士宮市人穴)

■御胎内

医療が発達していなかった昔、女性達が安産を願い、探訪した洞穴に「御胎内」があります。「御胎内」は人間の身体の内側のような様子で、乳房や産道のような形の岩壁が連続しています。このようなことから、浅間信仰の祭神、木花開耶姫の生まれた所であると信じられています。



御胎内
(御殿場市印野)

富士山に暮らす

山は富士、花は橘、男は次郎長と唱われる清水次郎長。その義理と人情に彩られた暴れぶりは様々な物語でお馴染みですが、この次郎長親分と富士山の暮らしにはどんな関係があるのでしょうか？社会貢献に奔走する次郎長の後半生を紹介します。

次郎長開墾

清水次郎長こと山本長五郎は文政3年(1820年)元旦、清水市に生まれました。彼が生きた時代は、徳川幕府が崩壊し、明治政府が成立したまさに激動の時期でした。

彼の前半生は物語のように、博打と喧嘩に明け暮れ、子分の信頼篤い大親分でした。

■咸臨丸事件

次郎長49歳の時、ある事件が起きました。明治元年(1868)9月18日、幕府の軍艦であった「咸臨丸」が新政府の軍艦の攻撃を受け、清水港内に多数の死傷者が投げ出されました。そこで次郎長は、凋落の一途である幕府側の乗員を、ある者は介抱し、密かに逃亡させ、ある者は「壮士の墓」を建て手厚く葬りました。

この事が官軍に知れ渡ると「死ねば仏だ。仏に官軍も賊軍もあるものか」と啖呵を切ってみせました。

これを聞いたのが江戸無血開城の功労者

である山岡鉄舟。維新後、静岡県官職についていた山岡は次郎長の行動に心腹し、正業に就くように勧めました。次郎長もまた、17歳違いの山岡に信頼と共感を寄せ、山岡の言う社会貢献事業に参加するようになります。

■富士山南麓へ

さっそく、明治2年から、有度山(清水市)の開墾、三保(清水市)塩田開拓、巴川(清水市)の架橋などの地元事業に次郎長は着手し始めました。この頃、静岡県下では、旧幕臣による開墾事業が進められ、牧ノ原の開墾は茶所静岡の礎を築くものでした。

明治8年になると次郎長は子分達や、静岡監獄江尻支所の受刑者を正業に就かせようと、同じく開墾事業が行われていた富士山南麓に向かいました。

開墾地は標高350m付近で、当時の富士山南麓畑作地の上限くらいでしたが、川のない、水なし地帯でした。水を確保するため、井戸を掘っても水が出ない。水不足の中で荒地と格闘する日々が続き、脱走する者が始め

ました。これによって子分や受刑者の更正には挫折しますが、かわって地元の人たちが加わるようになると、開墾は順調に進み、明治17年には約76町3反(約78ha)の畑作地が、現在の富士市大淵に完成しました。

そして同年2月、次郎長本人が博打の咎(とが)で投獄されると次郎長の開墾そのものは頓挫してしまいます。しかし、水なし地帯の荒地を開墾した功績は大きく、後にこの一帯は次郎長町と呼ばれるようになりました。



国土地理院 1:50,000地形図

富士山に寄せる想い



日本エルダルト(株)代表

山崎 富士子 氏

静岡市生まれ。幼い頃から機械の扱いが得意で、女性ドライバーが数少ない時代に、自動車の運転も実用No1に。昭和50年、夫の死去に伴い同社の社長に就任。現在に至る。

昭和43年には富士山大沢源頭部(御中道付近標高2,200m付近)でボーリング調査中に落石事故を経験。

■基礎地盤発掘調査

私が仕事で富士山に関わるようになったのは、昭和43年富士山大沢崩れ源頭部の基礎地盤発掘調査の掘削からでした。もともと静岡生まれですし、富士山には愛着をもっていましたが、地元の間人は富士山を遠くから眺めているだけで、登るものじゃないと、登ったのはこの時が初めてでした。

ちょうどあの当時、マスコミにも「富士山が崩れる」なんて取り上げられていましたし、子供の雑誌などにも、富士山は二つに割れるなんて書いてあったり、社会的な感心も高くなり始めた頃でした。

作業はまず、ボーリング調査に必要な機材を源頭部まで運びあげることからはじめました。現在はヘリコプターで運搬しますが、当時は人力の時代。もちろん、私達ではどうにもならないので、「強力」(ごうりき)の方をお願いして、その方一人で1週間かかりました。御中道は、歩くだけなら苦にならないのですが、一番困ったのは電話。私など電話のある場所までの4kmの道のりを毎日2往復していました。

■お助け小屋での生活

10月から11月までが作業期間になるのですが、その間、寝泊まりしていたのがお助け小屋です。富士山ではその時期ともなると寒くて、小屋は隙間だらけで、外と温度が大して変わらないのですが、私は割りと平気な顔をして寝ていました。後に新聞社の方が取材であそこに滞在した

そうですが、枕元においてあったジュースが朝起きたら氷っていたとかで、早々に退散してしまっただけです。

飲み水はお助け小屋の雨水を貯める桶を使っていて、ボウフラが湧いていました。だから、使う時はいつも桶をドンと叩いて、ボウフラが底に沈むのを見計らって、水をすくって飲んでいました。また、その水でご飯を炊くのですが、あまりにも高所なので、どうしても上手く炊けませんでした。

■落石で頭に怪我

作業現場は5cm大の小石がビュンビュン飛んでくるような所でした。石が霜で持ち上げられて、下から風が吹くと降ってくるのです。現在なら安全を考えて、周囲の岩壁を全てフェンスで囲むのですが、当時のことでそんなわけにもいかず、自然が一番の防備ということで、早いうちに作業を済ませてしまおうということになったのです。そんな中、私の上に石が落下してきました。

事故の被害は私一人でした。ヘルメットを被っていたら、また違ったかもしれません

んが、「強力」の方に貸してしまっていたので、他の物を替わりに被っていました。傷跡は今でも跡があって、あと5ミリとか1センチとか深かったら命を落としていたと思います。

みなさん驚かれるのですが、当時45歳ぐらいでして、事故の後、自分の足で4kmの御中道を歩いて下山し、付き添う人もいなかったもので、一人で静岡の家へ自分の運転で帰りました。タオル半分くらいの出血があったのですが、あとになって皆、血が出たから助かったんだなんて笑っていました。

結局、入院することも、手術も縫うこともせず、一週間、家でゴロゴロしてただけで治ってしまいました。現在、骨が少しへこんでいるぐらいで、後遺症もありませんし、あんまり元気なので、あの事故の方ですか？なんて驚かれることもあります。

■私達の山だから

ああいう事故があっても、懐かしくて、あそこにはもう一度行ってみたいと思っています。大沢崩れで富士山は傷を深めている、私の名前も富士子ですし、私達の山だから「守っていかなくちゃ」と感じています。



昭和43年当時の作業風景

地域の ニュース

富士山ハザードマップ作成協議会の中間報告 富士山噴火の被害を 地図と数字で初予測

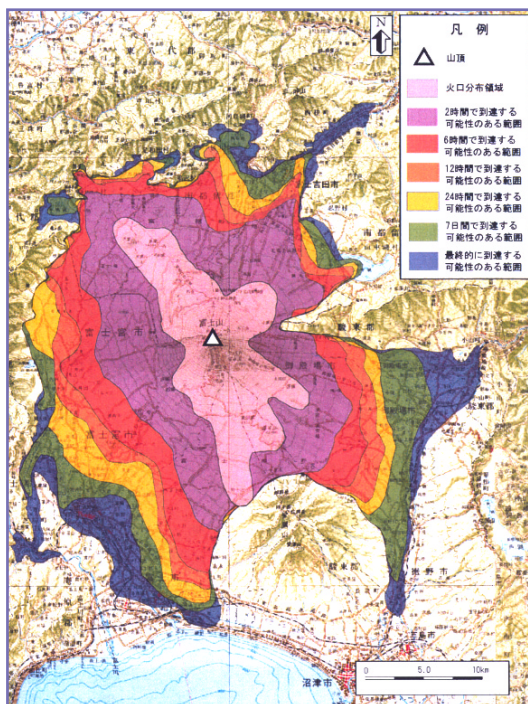
富士山の噴火に備え、政府や関係自治体でつくる富士山ハザードマップ作成協議会の中間報告が、6月12日に発表されました。

この報告は、江戸時代に発生した宝永噴火(1707年)の噴火規模を想定してまとめられており、溶岩流の流れ、降灰の規模等の被害をより具体的に示しています。溶岩流の被害では、山麓の被害が取り上げられ、富士吉田市から駿河湾にいたる愛鷹山麓を除く一帯に達する場合もあるとしています。降灰では季節によって降灰範囲が異なることが予測され、季節によっては、富士山の東の方面、神奈川、千葉と東京などへ、広範囲の被害が予測されています。

私達の生活の基盤になるものの被害としては、降灰後の土石流による家屋の全壊が木造家屋で約1900戸、道路は東名高速を含む約3700~1万4600キロが通行不能、農林水産業に関しても被害総額は最悪で約9000億円と予測しています。

すべての被害を合計すると、普賢岳噴火(約3000億円)よりも多く、阪神大震災(約十兆円)より少ない数兆円程度と試算されています。

★富士山火山ハザードマップ検討委員会の活動
状況は内閣府のホームページでご覧になれます。
<http://www.bousai.go.jp/fujisan/>



溶岩流の可能性マップ

溶岩流が到達する可能性のある範囲について、溶岩流がもっとも早く到達する場合の時間でしめたもの。大中小それぞれの規模の噴火の防災ドリルマップをもとに作成

台風6号の富士砂防管内への影響

●気象概要

台風6号の接近により、当事務所管内の大沢川沿いでは7月9日23時頃より雨が降り始め、7月11日3時頃までに

- ①御中道観測所(標高2,350m)273mm
- ②大滝観測所(標高1,700m)275mm
- ③上井出観測所(標高1,200m)181mm
- ④笹原観測所(標高500m)205mm

の雨を降らせました。幸い、管内では、土石流の発生もなく土砂災害及び、砂防施設の被害はありませんでした。



7月5日 白糸小の皆さん

なお、気象庁の静岡東部地方の警報・注意報(大雨、洪水)発表履歴と事務所の体制は以下のとおり

●警報・注意報(大雨、洪水)発表履歴

- 7月10日07:05 大雨・洪水注意報
- 7月10日11:25 大雨・洪水警報
- 7月11日01:35 洪水警報・大雨注意報
- 7月11日02:40 洪水注意報
- 7月11日08:25 洪水注意報解除

●事務所の体制

- 7月10日11:55 注意体制
- 7月10日14:30 警戒体制
- 7月11日03:10 注意体制
- 7月11日04:20 注意体制解除

リサイクルポッド植樹を行いました。

富士宮市の小中学校の皆さんが、砂防樹林帯を造成するため、校内で製作・保育したコナラ・クヌギなどの広葉樹のポッド苗、1270鉢を大沢扇状地などに植樹を行いました。

各学校の生徒、先生の皆さん、たいへんありがとうございました。
山宮小・富士宮四中・西富士中・西小・白糸小・上出小・井之頭小・井之頭中

国際山岳年2002富士山エコ・フォーラム開催

2002年は国連が提唱する「国際山岳年」です。登山シーズンたけなわの7月6日、富士山を代表とする山岳地域の自然保護を考える「国際山岳年2002富士山エコ・フォーラム」(主催・国際山岳年日本委員会、共催・環境省、静岡県、山梨県)が富士宮市民文化会館で開催されました。同フォーラムでは、山岳の自然保護、生活文化の尊重を啓発する「山の日」の制定が提案され、富士宮市立上井出小学校「富士山を守るフジアザミ」、同市立富士根北中学校「旧村山登山道の復活と整備」の富士山学習の成果が演劇などで披露されました。

第7回富士山への手紙・絵コンクール作品募集

お知らせ

富士山に学んだこと 富士山と共に生きること 富士山と地域を守る
ことそして美しい富士山をいつまでも残していくために

審査委員長 村松友視(作家)
応募期間 平成14年7月1日(月)
～9月16日(当日消印有効)

〒418-8601
静岡県富士宮市弓沢町150番地
富士宮市教育委員会 学校教育課
富士山への手紙・絵コンクール事務局
詳しくは主催者が配付する応募要
項をご覧ください。(応募票掲載)
主 催 富士宮市・富士宮市教育委員会

●絵部門

応募資格 どなたでも応募できます。
作品規格 一人1点、未発表のオリジナル作品に
限ります。画材や表現方法に制限はあ
りませんが、クレヨンなど他の作品を
汚すおそれのある画材はご遠慮くだ
さい。用紙は四つ折を使用してください。

●手紙部門

応募資格 小学生以上の方ならどなたでも応募
できます。
作品規格 一人1点(未発表のもの)、ハガキ400
字以内

●ご意見・ご感想・ご質問など、お気軽にお寄せください。

富士山に関する古い写真・資料等をお持ちの方、また
災害体験された方の情報提供をお願いいたします。

<連絡先>

富士砂防工事事務所

担当/建設専門官・鈴木、または調査課長・小泉まで

TEL.0544-27-5387

<お問合せ先>

■国土交通省富士砂防工事事務所
〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100
TEL.0544-27-5221

インターネット <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>

■富士宮砂防出張所
〒418-0103 静岡県富士宮市上井出826-1
TEL.0544-54-0236

